

東でも西でも活発に秋のIメイト交流会

「留学」について考えました

11月7日(土)14時から、早稲田奉仕園にて、秋のIメイト交流会が開催されました。参加者74名のうち約3割の23名が留学生で、全国各地から集まりました。

一部は前理事長の林 望氏から、「私の留学時代」という講演



会員の多くは作家リンボウ先生と同時代を生きた熟年世代ですから、ユーモアあふれるお話を、憧れと共感をもって聴講しました。

リンボウ先生の留学時代は約30年前、留学先はイギリスでしたが、どの時代でも、どの国でも、留学生は困難を乗り越えることで成長することができる、とのお話でした(内容の要約をご参照ください。3ページ)。また聴衆のひとり、藤原ひさ子さんから、50年前の米国留学体験記が寄せられました(同じく3ページ)。親しくなったホームステイ先の家族とは、生涯のお付き合いが続いているそうです。

講演の後はお茶とお菓子でしばらく交流会

外国で久しぶりに会う同窓生に学生たちの間から大きな歓声が上がりました。



〈老若男女真剣に聴いています〉

Iメイトのペア参加が今回は14組もあり、中村一郎理事が会場のみなさんに1組ずつご紹介しました。中でもアジア風のイベントに初めて参加するという、難病でお身体の不自由な上野洋一さん

と、Iメイトのタオさんとのご対面は感動的でした(上野さんの寄稿文をご参照ください。2ページ)。

二部は留学についてのパネルディスカッション

最近の留学事情についての報道によれば、日本の若者の留学先はアメリカと中国が逆転して、中国への人数が増えているそうです。費用が安価ということも一因ですが、アジアの時代を先取りしている、とも言えるそうです。一方日本への留学生数は、国の30万人計画にはほど遠く、18万人あたりで低迷しています。東日本大震災の影響が大きいようですが、そのほかにどのような背景があるのでしょうか。

今回のパネルディスカッションは、元Iメイト学生であった3



〈ディスカッションも佳境です〉

人と、日本人学生会員合計4名から留學生生活について体験談を披露してもらいま

した。4人のパネラーをまとめた司会者は、自身もタマサート大学へアジア風派遣の日本語教員として一年間外国生活を体験した福田(旧姓日置)陽子理事。福田理事のまとめをご参照ください(3ページ)。

パネラーの話によって、留學生生活が個人としての自立と成長を促すということが確認されたのはもちろんのことですが、日本の受け入れ体制の問題点も浮き彫りになり、私たちアジア風に期待されていることがより明確になったような気がします。Iメイト会員の皆さん、留學生が日本滞在中によい体験ができるよう、更なるご支援と貢献をよろしく願っています。

過去最高33人、秋の神戸に集う

2015年の西日本地区秋の交流会が11月28日(土)、神戸市内で開催されました。留學生16人(貿易大10人、清華大4人、タマサート大2人)が、遠くは鹿児島、長崎、福井からも参加し、そのIメイトのパートナー中心に日本の会員も多数参加、西日本地区での交流会では過去最高の総勢33人が神戸に集いました。

まず新幹線新神戸駅から始まるハイキングコースを約15分歩いて「布引の滝」へ。平安の歌人が愛した景勝の地が市街地のすぐそばに存在することに、留學生ばかりか東京から参加の会員もびっくり。続いて新神戸駅そ



〈布引の滝での記念撮影、多すぎて一部お顔がきれてすみません〉

ばの人気企業ミュージアム「竹中大工道具館」へ。江戸期の神社仏閣専門の大工棟梁が明治維新に対応し、西洋の建築技術を取り入れ、日本の近代化に貢献した歩みを説明すると、留學生は興味津々で多くの写真、大工道具の展示に見入っていました。

お昼は三宮の中国料理店「老房」の個室を使っでの交流会。食

事をしながら、留學生が順に自己紹介し、「日本へきて驚いた事」を発表。「休講が多く、自主的勉強ができる」(清華大留學生)と皮肉交じり?の発言や、地震の体験、大阪弁への対応など、ユーモアたっぷりの発表に会場は一気に盛り上がり、ベトナムで教員生活を3か月して帰国した今井進さんの体験記も加わり、会場は和気藹々の雰囲気。



〈昼食交流会で留學生がユーモアたっぷり発表〉

約1時間半の昼食交流会を終えて、南京町からメリケンパークへ歩き始めましたが、皆さんの会話がはずみ、行列は長く、長く。先頭の道案内役が後ろを振り返って、迷い子が出ないか気が気でない様子。港神戸発祥の地では20年前の阪神淡路大震災からの復興を記念するメモリアルパークを見学、大震災が日本経済に与えた打撃などの説明を受け、そのあと海洋博物館を訪問。神戸が生んだ大企業、川崎重工業の博物館「カワサキワールド」で、バイクなどに乗っての記念撮影をして、「楽しすぎて時間があっという間にたってしまった」(ある会員)交流会は午後4時過ぎ、いったん終了。その後、元町に戻ってカラオケを楽しみ、交流を深めた楽しい一日は終わりました。



花嫁の父

「あっ！ペオニーくん」と私は思わず叫んでいました。この叫びは小岩駅頭で彼女にはじめて出会ったときの、私の心の中だけの出来事でしたから、彼女には全く気付かれることもなく、その後の8年余りが過ぎ去りました。



〈一步一步に十年が去来します〉

ペオニー君、ご存知ナサニエル・ホーソンの短編小説「ザ・スノー・イメージ」に出てくる、かわいい男の子の名前です。彼女に男の子をイメージするなんて、いささか失礼ですが、つぶらな瞳に色白でまん丸い顔、まだあどけない少女の雰囲気を残したこの乙女に出会ったとき、どうしたわけか、数十年も前に読んだ（というより読まされた）英語副読本の断片が一瞬脳裏を過ったのでした。

この彼女こそ、このたびめでたく華燭の典をあげられた唐朝（とうちょう）さんなのです。当時、北京第二外国語学院2年生だった唐朝さんとは、この1年前に「Iメイト」として運命の糸がつながっていたのですが、それがこんなにも太い絆になるうとは、思いもかけないことでした。

「わたくしたち、結婚式をあげることになりました。ついては、日本のお父さんとして、いっしょにバージンロードを歩いていただけないでしょうか」という電話を受けたときは、一瞬ためらうも、嬉しさいっぱい、臆面もなくお父さんに成済ますことに致しました。

当日の私はといえば、朝からいささか緊張気味で、リハーサルでは、視線をどこに置いてよいやら、花嫁のドレスの裾を何度も踏みつけ、踏み出す足の右左も、いったい自分の脚がどこについているのか判らなくなってしまう有様に、本番が思い遣られたことでした。

あのバージンロードの長くて短かったこと。そして、我が娘を新郎に手渡すときの切なさ。「花嫁の父」のあれこれの思いをしみじみ味わったひと時でした。

蛇足ながら、このカップルは新郎の転勤に伴って11月、ニューヨークへと旅立ちました。任期は5年ぐらいと聞いていますが、風邪をひかずに達者で帰って来てくれることを切に祈っています。

（正会員 坂上 勝朗）

タオちゃんとの出会い

Iメイトになって4年。グエン・フォン・タオちゃんは2人目の学生だ。最初は中国からの留学生。彼女は阪大に留学していたので、交流会等の場は関西中心。私は十数年パーキンソン病を患い、歩行に不安があるためアジ風の行事には全く参加せずメールのやり取りだけの付き合いに終始してきた。

そんな私が敢えて今回参加することになったのには二つの理由がある。第一に妻の献身的な協力。近年の私の行動はすべて車。しかし私は軽度の脳神経疾患のため、ごく近場を除き運転はしないので、運転は妻任せ。従って妻の理解と納得なくして動きが取れないのだが、今回は納得が得られた。第二の理由はタオちゃんの素朴な物言い。「おじさん、東京での交流会には参加しますね、是非会いたいです」これで決まりました。今回は僕も参加する、と妻に伝え準備を始めました。

11月7日（土）東京での交流会に参加し、タオちゃんに初めて会いました。可愛いお嬢さんでした。その晩は焼き肉を食べながらベトナムの話のいろいろ聞きました。ベトナムも韓国や日本の



〈雨に煙る箱根にて〉

ように受験競争が激しくなり、タオちゃんも高校時代塾通いで毎晩帰りが遅かったそうです。又、旅行好きな彼女は京都・奈良・屋久島から韓国・フィリピンまですでに予定を組んでいるとか。豊かになった東南アジアの側面を思わぬところで見聞しました。

その晩は我が家に泊まり、翌日曜は生憎の天気でした（雨降り）が、彼女の希望もいれまず箱根へドライブ。箱根は入山規制と雨のお蔭で紅葉時期なのにそれほど混雑もなく見物できました。昼は回転ずし。そのまま横浜のみなどみらいを見て成田に向かう。当初予定ではもう一泊我が家に泊まるはずが、9日のフライトが早朝7:35amでは間に合わないの、成田に前泊することにした。

そのとき初めて11月8日が彼女の誕生日だと分かり、急遽、ホテルのレストランで誕生会となった。21歳の誕生日を一人外国で迎えるのはさみしいだろうと、ほんとにささやかなプレゼントも何もない席でしたがそのときから私たち夫婦はタオちゃんの日本のお父さんとお母さんになりました。

（正会員 上野 洋一）

会員紹介

ふくもと かずお
含本 一雄さん

入会1年余りで多彩な活動



大阪在住の含本さんが入会したのは、2014年の春。小林製菓を3年前に定年退職し、経営コンサルタントに転じて、東京での仲間の勉強会に出席した時、講師として出席していた奥山寿子事務局長の話聞いて「これだ」と閃いた。「アジ風に参加してくれる人いますか」との奥山さんの呼び掛けに、その場で

迷わず挙手をした。

その秋からIメイト交流を始め、2015年は関西での春・秋の交流会に出席、清華大学訪問団にも加わり、当初予定外のカラオケ大会実現への仕掛け人を務めるなど、積極的な活動ぶりが目を引く。

上海での日中合弁事業立ち上げのため、1997年から5年間、家族帯同で上海に赴任した。それまで海外勤務とは縁がなかったが、社長として奮闘、創業時27人だった社員が5年間で80人に成長、現在は日本の単独事業として500人を超えるまでになっている。

「中国経済の成長ぶりと、滞在時の中国人の親切さが忘れられない」含本さん、「退職後は恩返しに何かボランティアを」と考え

ていたところに、奥山さんの講演がピタリと一致した。

初のIメイトとなったのは、清華大の陳 宇澄さん（京大留学中）とタマサート大のペッパイリン・ジンダーさん。陳さんとは、詩歌暗誦コンテスト出場を控えて、メールで送ってきた音声と奥さんと一緒に聞いて、発音の修正を働きかけるなど、準備で協力。陳さんは見事3位入賞を果たし、北京で喜びを共にした。ジンダーさんとは、バンコクに旅行した際、会って、留学の相談に乗ったり、日本語検定の参考書をプレゼント。留学で来日するのを楽しみにしている。今は貿易大も加わってIメイトは3人に。「日本語の添削は適度に抑え、日本の文化、伝統などの理解促進に務めている」として、近所のお寺の節分豆撒きの写真を撮って送るなど、献身的な努力を惜しまない。仕事ではマーケティング分野が中心だっただけに、顧客志向、時代の流れに敏感だ。

アジ風への要望は、「メールを基本に、チャットやラインなどを活用し、日常的に連絡しあうこと」と、Iメイト間での新しい通信手段の併用を提案。学生の生活習慣、メールに臨む負担などを踏まえ、交流を深めるためだ。先ほどの神戸交流会終了後のカラオケでは「あさが来た」（AKB48）を準備していたが、「お店に曲がなく残念だった」と語る笑顔がすがすがしい。

（インタビュー・理事 田仲 和彦）

「私の留学時代」－林望氏講演要約－

明治の文献を整理する学術的な研究のために1984年から3年間、イギリスの名門大学で研究された経験談を話された。研究の対象は、主に明治以降に外交官のアーネスト・サトウが日本で買い集めて持ち帰った古典文学や文献であり、ロンドン大学、ケンブリッジ大学でそれらの目録を作成し、完成された。学術的な交流の少なかった時代で、留学のビザ申請から、留学生在

が順調に進むまでには様々なカルチャーショックを経験し、苦勞の連続だったが、幸運だったことは共同研究者や、留学生在を支えてくれた人々、家を貸してくれた老婦人たちとの出会いがあったことだ。ご自身で困難を乗り越えて来た結果、今日の自分があるとまとめられた。留學生たちには努力を要することに意味があり、あきらめずに目の前の困難を乗り越えることの大切さを説かれた。
(理事 奥山 寿子)

外国で学ぶこと～日本留学は魅力的か？

秋のIメイト交流会の第二部では、留学をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネラーは、清華大学を卒業後東京大学大学院で中国語を研究している宋天鴻さん、タマサート大学を卒業し現在は東京学芸大学大学院研究生のテップラット・シワポーンさん、貿易大学卒業後日本の企業に就職したヴィティビック・ホンさん、アジ風の学生会員で在学中に中国へ留学した府川由季さんと多彩な顔ぶれでした。宋さん、シワポーンさん、ホンさんはいずれも元Iメイト学生で、卒業後もアジ風との繋がりが続いています。

ディスカッションでは、留学の意義や現在の日本の留學生受け入れの課題について尋ねていきました。意義については、言語の上達は然ることながら、自由な時間・環境の中で新しい自分を発見できたことや初対面の人とも臆せず話せるようになったこと、また、府川さんからは留学経験が就職活動時に有利に働いたことが語られました。一方で、日本の留學生受け入れ体制が不十分な点も浮き彫りになりました。宋さんは、寮がキャンパスから遠く離れたところにあることに触れ、「帰り道、いつも寂しくなります」と切々と語りました。また、日本の大学院に入るためにはまず研究生という不安定な立場を経る場合が多いことが、日本への留学を躊躇う一つの要因になっているそうです。ここ数年在学中に留学するIメイト学生も増えてきました。アジ風は、留學生が「日本に来て良かった」と思えるように力になっていきたいと思いを新たにしました。

(理事 福田 陽子)

丹波の少女シアトルに行く

ぐるりと稜線に象られた丹波の小さな空に浮かぶ折々の雲や木漏れ日を飽かず見上げては、空想の世界に遊ぶのが何よりの愉楽だった少女。やがてあの空に続く世界をも見てみたいと念願し、叶ったのが今から半世紀も前のことです。

シアトル郊外の高校との交換留学制度が発足し、幸運にもその第一回目の留學生となった田舎の少女の目に映ったのは、まことに華やかで、快活、自由で先進的な社会。当時ベトナム戦争や宇宙開発で絶頂期のボーイング社工場のある町は人と活気に満ち溢れていた。と同時に、戦争や人種差別の影は高校生に日常生活にも色濃くのしかかっているのを垣間見ても、心を痛めた。

日本からの初めての留學生は町を挙げて歓待され、ガラス張りの生活は少し窮屈ではあったが、それにも増して彼らの気遣いが嬉しかったし、今尚忘れることはない。先年ホームステイ先の母は私の到着を待ちわび、最後の言葉を交わしたその数時間後に不帰の人に。こうした生涯の付き合いは今も続いている。

アメリカで受けた大きな恩を、半世紀を経てようやく少しずつ返せる足掛かりになったアジ風に感謝です。

(家族会員 藤原 ひさ子)



アジ風交流校便り・清華大学

勉強漬けでも毎日明るく！

私の清華大学派遣勤務も本年度で3年目を迎えました。日本語科は現在1学年2クラス（中国籍クラス+留學生クラス）で、留學生の大半を韓国籍の学生が占めます。私の担当は主に2年生の基礎日本語および視聴覚の授業です。ここでは2年生の状況を中心にお話ししたいと思います。2年生の基礎日本語授業は月～木の毎日、文法や語彙などを中心に学んでいます。副専攻を選択し、週末に授業がある学生もいるため、時間が足りないという悩みをよく聞きます。しかし、学生は課された課題は確実にこなします。教科書の本文すべてに一つ一つアクセント、イン

トネーションまで細かくメモを入れている学生もいます。また、中国での外国語教育は丸暗記が基本であり、1年次はもちろん2年次でも、教科書の会話文を覚えて劇をするという宿題をよく出しています。特に中国籍の学生は数日の練習期間だけで、すらすらと表情豊かに演じることが出来ます。

多くの学生の興味はやはりサブカルチャーにあるようです。同時に、中国の大学入試の制度上、日本語が第一希望ではなく入学してきた学生もおり、文学など別の分野へ強い関心と知識を有している学生もいます。今はまだ言語習得に重点がありますが、今後は日本語を使って広く学べる力を有しています。日々勉強漬けでも明るく過ごす清華大学の学生たち。ぜひ温かなご支援をお願いいたします。

(正会員 宮崎 いずみ)

アジ風奨学金に寄付者募集中！

小田 晋作さん（正会員）からご寄付をいただきました

小田晋作さんは設立当初からの会員で、以来ずっと高校の後輩である筆者の応援を続けてくださっている誠にありがたい存在です。資産など持ち合わせない我ら夫婦が、老後の資金の一部を奨学基金として拠出したことに「感動したよ。僕もお役に立ちたいので」とのこと。大変心強く思いました。

まもなくアジ風奨学生第二号の募集が始まります。Iメイト会員の皆さんは、学部卒業によりIメイト解消になっても、アジ風とつながって、将来日本と母国の懸け橋になってくれる有能な学

生が、奨学生候補として応募してくれるようご指導をよろしくお願いいたします。

奨学基金への寄付は一口10万円。認定NPO法人としての寄付控除（約4割、最大5割）があります。詳細お問い合わせは事務局へ。
(奨学基金担当理事・上 高子)





本間明子さんとワランユー・チャーイポーケン(ターイ)君のメールは、ターイ君が留学で日本に到着した際のLINEトークですが、短いながらも生き活きたやりとりが印象的です。石田義夫さんとティーラワット・スリントラーショー君のメールは、南山大学留学中のティーラワット君に対する石田さんの温かい心遣いが感じられます。

(タマサート大学Iメイト交流コーディネーター 古畑 仁一)



本間 明子さんとワランユー・チャーイポーケンさん (通称ターイ君) のメール

本間さん→ターイ君 2015年9月17日



〈綺麗な肩掛けは民族衣装です〉

いよいよ日本留学ですね! 成田空港へは大学の方が迎えに来てくれるのでしょうか。静岡大学と東京は離れていますが、ターイ君と会うチャンスはたくさんあると思います。知らない土地と知らない人達の中での学生生活は期待と不安でいっぱいでしょうが、ここでの1年間は、ターイ君のこれからの人生にとって良い経験になります。日本の生活を楽しんでください。

ターイ君→本間さん 2015年9月29日

成田空港に着いたら大学の方が迎えに来てくれます。出発日がそろそろなのでドキドキしています。(笑) 日本にどうぞよろしくお祈りします。

本間さん→ターイ君 2015年9月29日

日本へようこそ ☺ 静岡大学でたくさん勉強してください。そして日本でたくさんの思い出をつくってね。静岡からは富士山がきれいに見えます。感動しますよ! 連絡を待っています。

本間さん→ターイ君 2015年11月1日

もうすぐ会えますね! 7日のアジ風交流会ですが、もし良かったら我が家に泊まってください。汚い家ですけれどもね! 迎えに行きます。どこか行きたい所がありますか?

ターイ君→本間さん 2015年11月1日

時刻表で11時15分に着くと思います。東京がよくわからないので、行きたい所がまだないです。どこにも行きたいです。(略)。あのう、タオルとか持っていかなきゃですか?

本間さん→ターイ君 2015年11月1日

いません。私の家にあります。着替えだけ持って来てね!

ターイ君→本間さん 2015年11月8日

三日の間に楽しくない時間が全然なかったです。ありがとうございます。会館(寮)に着きました。今、寂しくなりました。

本間さん→ターイ君 2015年11月8日

また、遊びに来てね! 東京のお母さんより。

ターイ君→本間さん 2015年11月8日

はい! お母さん。



石田 義夫さんとティーラワット・スリントラーショーさんのメール

石田さん→ティーラワット君 2015年10月5日



〈右がティーラワット君、左は元Iメイトのバッタラボンさん〉

今日、ヤマト宅急便を宿舍のあなた宛に送りました。ジャンパーは息子のプレゼントですが、若者向きなのできっとあなたの方が似合うと思います。お菓子は勉強で疲れた時やお茶の時間にも食べてください。カレンダーを見て日本の風景を楽しんでください。

名古屋に来て1か月が経ちましたね。毎日、満員電車で通学が大変でしょうが、頑張ってください。

タイのご家族とは定期的に連絡をして安心されるようにするのが大事ですヨ。先にアドバイスした緊急連絡リストは、いつも身に付けるようにしてくださいね。

ティーラワット君→石田さん 2015年10月7日

こんばんは。只今品物を受け取りました。いろいろお気遣いいただきありがとうございます。

石田さんがいろいろ応援くださって感謝しております。お菓子は美味しそうですね。「笑」セーターも格好いいです。勉強はやはり難しく大変ですけど頑張ります。今後ともよろしくお祈りします。

石田さん→ティーラワット君 2015年11月28日

急に寒くなってきました。アジ風から新春のプレゼン大会へ留学生の参加を呼び掛けるように改めて連絡を受けました。ティーラワット君も講義やレポートで忙しいようですが、2/13~14日に東京で会えるチャンスでもあります。発表文については私も協力しますのでぜひ参加して欲しいと思います。

ティーラワット君→石田さん 2015年11月30日

こんばんは。期末試験が迫ってきて何かと忙しくなってきました。新春のイベントにお誘いいただきありがとうございます。発表課題について、まだしっかりした考えが浮かびません。冬休みに旅行の予定があり、来学期には、上級日本語の授業を取るため、宿題が大変になる心配をしています。そのため発表準備の余裕がない恐れがあります。申し訳ありませんが7日までに返信しますので少し考える時間を下さい。よろしくお祈りします。

● ● ● 編集後記 ● ● ●

「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事」は、「初春正月の今日降る雪のようにもっと重なれ良い事」と、新年を迎えたよるこびと一年の安寧を願って、大伴家持が詠んだ『万葉集』の掉尾を飾る和歌です。

アジ風新聞は2003年秋から回を重ねて、この冬号は記念すべき50号です。発行はあたたかも2016年新春。編集に携わりながら、家持の和歌が浮かんできました。雪ならぬ余白や行間に降る会員皆さんの思いがますます重なり合い響き合い、佳き新聞になりますようにと言祝ぐ気持ちでいっぱいです。

新聞の編集は人や文字言葉と同様に、字数も重要な要素です。割付の際、力作原稿を少し編集させて頂くこともあります。そんな折には行間に降った雪を消さないようにと願い、真っ白い雪に足跡を付けてしまう畏れも覚えます。読み手に、書き手の想いの積もった新雪のようなアジ風新聞を届けたいと新米編集委員は経験豊かな先輩委員に導かれながら願っております。(原谷 洋美)

今後の主な行事予定

* 詳細はHP・メールでお知らせします。

2月13日(土) 10:30~
新春交流会 (JICA地球広場)

2月14日(日) 11:00~
アジ風と世田谷区民の交流会
(昭和女子大学)

2月18日(木) ~ 22日(月)
日本・タイ・ベトナム三国交流会
(タイ: タマサート大学)

4月17日(日) 11:00~
春のIメイト交流会
(東京NHK青山荘)

6月ごろ
西日本地区Iメイト交流会

芭蕉曰く、
物言えば唇寒し秋の風
高雪曰く、
物言うて唇熱き多文化や
空気読まずにもつとのびのび
今年こそ、時代の閉そく感を
「アジアの新しい風」で
吹き飛ばしましょう

上 高子 (理事)
高橋 雪子 (正会員)